

2008

産学連携で目指すサステナビリティ  
「地球環境への思いやり～東北大学の挑戦～」

東北大学と読売新聞の共催で好評をいただいている「市民のためのサイエンス講座」。今年のテーマは、待ったなしの対応が迫られている地球温暖化問題と、省エネ・省資源型の社会作りに向けた東北大学の取り組みです。環境問題について考える絶好の機会。ふるってご参加ください。



- 日時：2008年9月16日(火) 17:00～20:15  
          <16:30 開場>
- 場所：せんだいメディアテーク1階オープンスクエア  
          仙台市青葉区春日町2-1 TEL 022-713-3171
- 入場無料 定員 200名

※下記要領でお申し込みください。お申し込み多数の場合抽選となります。

東北大学は今・・・

今、私たちは地球規模で克服すべき複雑かつ困難な様々な課題に直面しています。東北大学は昨年創立100周年を迎え、今後は次の100年に向けて、これまでの歴史の中で継承してきた知の蓄積と、研究・教育の創造を通じ、「世界リーディング・ユニバーシティ」として諸課題に立ち向かう先導力となる決意をしています。

講座1 「地球温暖化の現状」

東北大学大学院理学研究科 研究科長  
花輪 公雄 HANAWA Kimio

18世紀半ばの産業革命以来、人類は大量の化石燃料を消費してきました。その結果、二酸化炭素などが大気中に蓄積され、温室効果で地表付近の気温が年々上昇しています。これが地球温暖化です。講演では、昨年、公表された「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」の第4次評価報告書に基づいて、切迫する現状を解説します。



【講師略歴】  
東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻博士課程学位取得者。1994年から同大教授。現在、理学研究科長・理学部長。国の「気候変動対策委員会」議長も務める。日本気象学会賞などを受賞。

講座2 「みんなで広げようエコハウスの輪」

1kwhのエネギー作りによるCO2排出量削減  
東北大学大学院環境科学研究科 教授  
田路 和幸 TOHJI Kazuyuki

洞爺湖サミットでも取り上げられたように、CO<sub>2</sub>削減は全世界の課題です。家電製品と消費電力の関係を理解すれば、効果的に省エネルギーに取り組むことができます。お金をあまりかけずに、自前のちょっとした努力で作れ出すエネルギーが、家庭内の生活に役立つ実例として、現在、準備を進めている未来型のエコハウスを紹介します。



【講師略歴】  
学習院大学大学院自然科学研究科化学専攻博士課程中退。東北大助教などを経て、1999年に同大学院工学研究科教授。2003年から環境科学研究科教授。今春、文部科学大臣表彰を受ける。

講座3 「環境負荷低減のための資源リサイクル」

東北大学多元物質科学研究所 教授  
中村 崇 NAKAMURA Takashi

リサイクルが環境負荷をどのように低減するのか、逆にどんなリサイクルは不適切なのかを分かりやすく説明します。また、ハイテク産業に不可欠なレアメタル(希少金属)資源の確保を巡る最近の動きを踏まえ、秋田県で行っている、廃棄された小型電子機器の回収とその再資源化に関して、Eiなどの状況と比較しながら紹介します。



【講師略歴】  
九州大学大学院工学研究科冶金学専攻博士課程修了。九州工業大教授などを経て、1996年から東北大教授。今春まで多元物質科学研究所の資源循環・再生研究センター長。現在、日本金属学会理事。

3人の講師が40分ずつ講演。それぞれ質疑応答タイムがあります！



■お申し込み方法

「住所・氏名・職業・年齢・電話番号」を明記し、ハガキ、FAXまたはEメールでお申し込み下さい。入場整理券を郵送します。

- ハガキ宛先 〒980-0021 仙台市青葉区中央2-3-6 読売仙台ビル3階 読売新聞東北総局 「市民のためのサイエンス講座」係
- FAX 送付先 022-222-8386
- Eメール送信先 tohoku@yomiuri.com

- お申し込み締切 いずれも9月5日(金)必着
- お問い合わせ 読売新聞東北総局 TEL 022-222-4121

